

輝く目、響く声

高校は、いま

これまで発行された関高の記念誌を開くと、長い年月をかけて培ってきた伝統を見て取ることができます。

例えば、部活動。

70周年記念誌には柔道部が

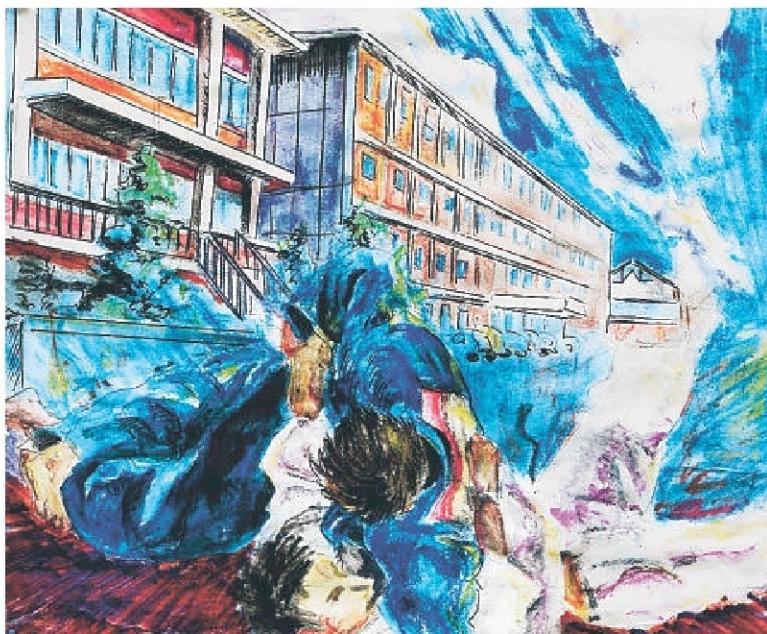
全国大会へ連続12回（昭和38～49年）出場し、同58年に通算18回が、80周年記念誌には平成5年に陸上部の男子がやり投げで国体とジュニアオリンピックに出場したことが載っています。

伝統は今も健在で、柔道の女子個人で3年生がす。

今年の全国高校総体に出場し、陸上部も投てき部門で常に好成績を収め、文系でも放送部と文芸部が全国大会に出場しています。

グローバルな視点育む

柔道と校舎風景



柔道と校舎風景
年可児盛明

では、今後の関高校の姿は?ということです。が、本校は本年度に県教育委員会より「併設型中高一貫教育校設置のため

の研究」指定を受けましたので、このことを軸にい学校の在り方や育てたい力をより明確にし、真に使える英語力の育成と

習熟度別・少人数指導による学力向上を目指します。具体的には、1年生でのTOEFLジュニアの全員受検、留学希望者への支援の充実、電子黒板を備えた近未来型教室の整備とそれを利用したインクランクティブな授業（双方向・対話型授業）の開発などを実施していくま

す。（文・関高等学校長 安藤敏彦、挿絵・同校2年可児盛明）